令和7年度 学校経営要綱

広川町立中広川小学校

1 学校の教育目標

(1) 学校経営の基盤

日本国憲法、教育基本法、学校教育法、こども基本法、いじめ防止対策推進法、学習指導要領などの諸法令をもとに、福岡県教育大綱・広川町教育施策要項及び広川町第5次総合計画の趣旨を受け、変化の激しい21世紀にあって、人権尊重の視点に立ち、一人一人の個性と能力を伸ばし、生きる力を持った日本人の育成をめざし、本校の教育を推進する。

(2) 教育目標

① 広川町学校教育の重点目標

「子供の個性と能力を伸ばし、生きる力を育てる学校教育の推進」

② 学校教育目標

自他を尊重し、主体的に学ぶ子供の育成

【学校教育目標の意味】

○ 自他を尊重するとは

自分を尊重するとは、子供自身が、自分が大切な存在であると認識することである。これは、自分の良いところに目を向けたり、自分を成長させようとしたりする言動に現れる。自分を尊重することができない子供は、他人を尊重することもできない。自分自身を尊重することは、良好な人間関係を築くために土台となる。

他を尊重するとは、子供が、周りにいる友達、先生、地域の人、家族等を大切な人間として認識することである。これは、進んで挨拶をしたり、挨拶を返したりする。相手の話に耳を傾ける。協力して活動し、ありがとうやごめんなさいが言える。話し合いで折り合いをつけ合意する。共感したり励ましたりする。相手がいやがる言動をしない。感謝する。などの言動として現れる。

自他を尊重するとは、自分も、周りの人も大切な人間であると認識し、大切に
する言動ができることである。一人一人がお互いを尊重し大切にできる学校は、一人一人に安心感と自信を与え、これがすべての教育活動の基盤となる。

○ 主体的に学ぶ

主体的とは、自らの意志や判断で行動することをさす。主体的に学ぶ子供とは、
自分の目標や目的にむかって挑戦し、粘り強く考え、判断し、行動できる子供で
ある。

主体的な学びは、「学びに対する目的意識（＝学ぶことへの自分の理由）」と「自立的に学びを進められるだけの基礎学力と学び方」の双方を身に着けたときに成立する。子供が、今後の変化の激しい予測困難なこれからを生き、持続可能な社会の担い手として変化に対応するには、主体的に学ぶ力が必要である。

(3)めざす子供像～こんな子供たちに～

- 主体的に学び、協働して課題を解決する子供 (進んで学習する子供)
- 自他を大切にできる言動ができる子供 (人を尊重する子供)
- 自分の目標に向かって挑戦する子供 (自分に挑戦する子供)

(4)めざす学校像～こんな学校に～

- 尊重し合う人間関係を育む学校 (共に学ぶ学校)
- 教室環境・言語環境が整った学校 (整った学校)
- 地域に開かれ、親しまれる学校 (地域とともにある学校)

(5)めざす教師像

- 全ての子供のよさと可能性を信じ研鑽に励む教師 (学び続ける教師)
- 協働し、感謝の心を持って職務にあたる教師 (協働する教師)
- 子供、保護者、地域住民、同僚から信頼される教師 (信頼される教師)

2 学校の実態

(1) 子供の実態

【自他を尊重する】

友達を責めたり笑ったりせずに仲良く活動したり、良さを見つけたり、進んで挨拶をしたりしていると回答した子供は9割を超えている。他者を尊重しようとする心は育っている子供が多い。しかし、いけないと分かっているにもかかわらず暴言や暴力などが嫌がる事をしてしまう子供や、地域で見守りをしている方や担任外の先生、友達などがあいさつをしても返すことができないなど、自他を大切にしようとする気持ちを言動にうつすことにはまだ課題がある。また、自分の良さに気づいていない子供も3割以上みられ、それらの子供が自分の良さを自覚し自信を持たせる支援が必要である。

【主体的に学ぶ】

国語科、算数科共に約3割の子供がD層（正答率50%に満たない）であり、主体的な学びに必要な基礎学力の習得が不十分である。既習内容の定着ができていない子供は、学びに向かう意欲が低く、学習用具が揃わず授業へのとりかかりに時間がかかったり、読書や家庭学習も自力でできなかったりして学力差が広がっている傾向がある。学びに向かう意欲の低い子供を学習に向かわせる支援を工夫することが課題である。また、個別の配慮が必要な子供も多く、指導に特別な配慮や専門的なスキルを要するため、外部の専門家と連携を密にした支援が必要である。

(2)保護者・地域の実態

保護者、地域、共に学校の教育活動に対して協力的で、協力や支援が得られやすい環境にある。

(3)教職員の实態

学年チームで協働して、課題解決へ向けた方策を積極的に考え、授業力等の技術面での向上を目指して真摯に研修を積み、日々の指導に生かすことを心がけている職員が多い。

校務分掌を複数人で担当できることから、OJTの機会が多く、担当者等からの提案事項に対して、建設的な意見交流を行い協働的立場で活動を共にすることができる集団である。

経験の差による授業力・学級経営力の差があり、評価委員会などが提案する取り組みをクラスの子供に指導したり、振り返って褒めたりする共通実践で足並みがそろわないことがある。

3 教育課題及び経営課題

(1)教育課題

- 主体的な学習態度の育成と学力の2極化の解消
- 他者を大切にする心の行動化
- 自分のよさに気づくための挑戦と振り返り

(2)経営課題

- 学年集団で授業力・学級経営力を向上させる組織運営
- 4 評価委員会の取り組みの共通実践と評価の徹底
- 外部の専門機関・地域との連携の強化

4 重点目標

自ら行動する子供の育成 進んで学習・人を大切に・自分に挑戦

【重点目標がめざす子供の姿】

- 進んで学習し「分かる・できる」と自覚する子供 (進んで学習)
- 自他を大切にする行動ができる子供 (人を尊重)
- 健やかな体づくりの目標を決め、進んで挑戦する子供 (自分に挑戦)

【令和6年度の児童の実態と課題】

(1)進んで学習…3割のD層の子供が進んで学習に取り組み、国語科・算数科が「分かる」と自覚できるようにすること、読書や家庭学習も進んで取り組む事ができるようにすることが課題。

《全国学力学習状況調査》

- 国語科…正答率 66% (全国 67.7%) D層 29.8% (全国 14.7%)
- 算数科…正答率 58% (全国 63.4%) D層 29.8% (全国 2.9%)

《全国学力学習状況調査 質問紙》

- 将来の夢や目標を持っていますか
あてはまる…67.9%↑ (全国 60.6%)
- 学校の授業時間以外に、普段1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。
1時間以上 44.7%↓ (全国 54.6%)
- 5年生までに行った授業では、課題の解決に向けて自ら考え、自分から進んで取り組んでいましたか。
あてはまる 21.4%↓ (全国 29.5%) あてはまらない…7.1% (全国 2.5%)
- 国語の授業の内容はよく分かりますか
あてはまる・どちらかと言えばあてはまる…72.4%↓ (86.3%)
- 算数の授業の内容はよく分かりますか
あてはまる・どちらかと言えばあてはまる…71.5%↓ (82.1%)

《R6 生活道徳性アンケート 全校児童対象》

- 進んで読書をする事ができた…68.7%
- 学年×10分の家庭学習ができた…76.3%

《標準学力調査》 標準化得点

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語科	51.2	49.9	48.4	48.3	50.4	47.8
算数科	51.2	49.3	48.9	50.1	51.5	51.4

- (2) 人を大切に…挨拶、掃除、廊下歩行などの指導を全職員で徹底するとともに、子供の良さや頑張りを認め、価値づけ、褒めることで自己有用感を持たせ自分の良さに気づかせることが課題。

《R6 いじめ・不登校の状況》

○いじめ認知…45件（未解決0） ○不登校…8名

《R6 生活道徳性アンケート》

- 自分から進んで周りの人に挨拶できた…81%
- 失敗を責めたり笑ったりしないで仲良く活動できた…92.2%
- 友達のいいところを見つけることができた…90.1%
- 自分のいいところを見つけることができた…67.9%
- 時間いっぱい黙って掃除をすることができた…82%
- 廊下やゾーンなどを静かに歩くことができた…72.6%

- (3) 自分に挑戦…進んで体を動かすために、目的意識を持たせ、活動時間と場を保障することが課題

《R6 生活道徳性アンケート》

- 運動のめあてを決めて進んで練習ができた…85.1%
- 休み時間に週3日以上外で体を動かす遊びなどができた…72.6%

《R6 体力テスト》

- 課題がみられる種目…反復横跳び・立ち幅跳び
- 第5学年 体力テスト総合点 男子…51.6 女子…47.1

5 経営の重点

組織力を生かした授業力・学級経営力の向上

～全職員での指導の徹底 みとめて褒める～

- (1) チームで支え合う組織づくり

- ① 学年担任制の推進…学年全体で子供を育てる
 - ・高学年は、教科担任制の一部導入と交換授業を推進
- ② 若年教員研修の充実
 - ・若年教員（教職経験3年未満）の悩みを軽減し、自主的な学びと協働ができるように若年者同士で学びあう会（相談会）を位置付ける
- ③ 外部機関との積極的な連携
 - ・養護教諭と特別支援コーディネーターによるコーディネートのシステム化（SC・SSW・精神対話士・放課後デーサービス・病院等）
- ④ 特別支援コーディネーターを中核とした特別支援教育の充実

- ・通常学級の個別の支援計画・指導計画の作成と整理
- ・外部機関との連携（SC・SSW・病院・精神対話士・相談事業所）
- ・特別支援学級担任と交流学級担任、特別支援介助員との情報共有の場の設定

(2) 評価委員会の活性化

重点目標の具現化のために4つの評価委員会から提案された企画を確実に実施し、評価、改善できるように、評価委員会から提案された企画を主任会で共通理解し、学年集会で子供に周知するという一連の流れを定例化する。特に毎月学年集会で子供たちに取り組みを周知する際に、取り組みの成果を振り返り、伸びを認め、褒める場を位置付けることで、子供が自分の良さを認める事ができるようにする、

① 進んで学習・・・学力向上評価委員会が中心となって計画・実施・評価

主体的に学び、「分かる・できる」と自覚する子供を増やす

「進んで学習」は、子供が主体的に学習に取り組む行動を示すキーワードである。させられる学習ではなく、子供が課題意識を持ち、自ら考え、学びを進める子供主体の学習方法をめざし、学力向上評価委員会が中心となって推進する。

主題研修では、国語科、算数科を中心に『主体的に学び「分かる・できる」と自覚する子供を育てる学習指導』を究明する。

また、学びの基盤づくりとして、特性のある子供へ配慮した、ユニバーサルデザインの教室環境を整備するとともに、学び方を身に付けさせるために、①時間でスタートする。②自分から学習する。③自分なりに考える。という学習スタイル（3じの学習）を推進し指導する。さらに、家庭学習仕方の指導を行い、宿題＋自主学习（読書等）で、学年×10分の家庭学習が習慣化できるようにする。

《学ぶ力がつく 3じの学習スタイル》

じ 時間でスタート （スタートセットを準備し、時間を守って学習を始める）

※スタートセットをそろえましょう。

○身構え :やる気まままの正しいしせい

○物がまえ:鉛筆(赤黒)・消しゴム・定規・教科書・ノート・下敷き

じ 自分から学習 （聞く・読む・書く・計算する・話し合う）

※家でも学年×10分の家庭学習を自分から行う

じ 自分なりに考える （いろいろな発想で考える。間違いは宝物）

※自分なりの考えを、友達に伝えながら考えます。

② 人を尊重・・・心の教育・生徒指導評価委員会が中心に計画・実施・評価・改善

自他を大切にできる行動ができる子供を増やす

・進んで挨拶ができ、自他を大切にできる行動ができる子供 （心の教育）

・落ち着いて安全に過ごし、自他を大切にできる行動ができる子供 （生徒指導）

「人を尊重」は、自他を大切にできる行動を示すキーワードである。人を大切にできる考え方や行動を具体的に意識させることで、よりよい人間関係づくりの指導を徹底する。次年度重点的に指導する行動は以下の4つである。

自他を大切にする行動

し…しずかにすごす（暴言暴力0・室内では静かにすごす：生徒指導）
あ…あいさつをする（進んで挨拶をしたり、挨拶を返したりする：心）
わ…和を大切にする（争わずに認めあい、仲良く助けあう：心）
せ…清掃・整理整頓（身の回りを整理しきれいにする：生徒指導）

③ 自分に挑戦…体力向上評価委員会を中心に計画・実施・評価・改善

体づくりの目標を決め進んで挑戦することができる子供を増やす

「自分に挑戦」は、健やかな体をつくるために進んで体を動かすという行動を示すキーワードである。健やかな体づくりに子供が進んで挑戦できるようにするには、目標を設定し、目標達成の為に練習を続け、記録を可視化し、各自が自分の成長を見届けることができる時間と場所が必要である。

体力テストに向けての練習、持久走、短縄、長縄など、全校一斉に練習できる時期には、年間計画の中にチャレンジ週間を設け、子供が主体的に練習に取り組めるように場や時間を設定することで、子供が自分の成長を良さとして自覚できるようにする。

(3) 校内研修の充実

① 主体的に学び「分かる・できる」と自覚する子供を育てる学習指導の究明

- 学習意欲を高めるしかけのある導入の工夫
- 個に応じた支援の工夫で「分かる・できる」授業づくり・学びあいによる個に応じた支援（友達と相談したり教え合ったりできる時間）
 - ・話し方や考え方の例示と思考過程の可視化ができる板書やワークシート
 - ・学習速度の差に応じた課題の与え方や発問
- 研究授業の前に他クラスで授業を行ったり（ステップアップ授業）近接学年の授業を参観し合ったりすることで、授業をブラッシュアップする。

② 学習の基盤づくり

- 学習スタイルの徹底
 - ・保護者との連携と貸出用学習用具の準備
 - ・時間になったら子供が自分で始める授業のパターン化
 - 国語…学習用具をそろえる→めあての線を引く→音読・暗唱
 - 算数…学習用具をそろえる→めあての線を引く→今までのノートを振り返る
 - ・学びあいタイムの話し合い方のルールの周知（誰と、どのように）
 - ・家庭学習（宿題・自主学習）の仕方の指導の徹底
- ユニバーサルデザインの教室環境づくり
 - ・整理整頓・机の横に物をかけない・シンプルな教室全面掲示
 - ・貸出用のノートや道具のラベリング等
- 毎日読む場づくりの工夫
 - ・朝読書・音読・暗唱・読み聞かせなどで読ませる
- ICTの活用…個別最適な学びと協働的な学びのためのタブレットの活用